

六月十三日ヨリ戦斗終了迄ノ各部隊ノ状況概ネ左ノ如シ

歩兵才八十九聯隊

六月十五日敵ハ遂ニ其ノ一部ヲ以テ八重瀬岳ノ至聖ノ中岡地区ニテ突破セリ

其ノ兵力戰車ヲ伴フ約ニ中隊ナリ 聯隊ハ概ネ新垣附近ニ於テ十日

九日聯隊長以下殆ト全員戦死ナリ

歩兵才三十二聯隊

六月十三日師団命令ヲ以テ右才一線先五陣地ヲ以テ二移譲シテ右才一線

右翼ニ連撃シ陣地ヲ占領セシメ且ツ其ノ地一部ノ配備ヲ亦及カス

口爾後全線共ニ將兵ノ勇戦取斗ニ依リ能ク現陣地ヲ確保シ志気

極メテ旺盛ナリ

六月十七日午後敵ハ主力ヲ以テ右翼ニ正面ヲ突破シ中街道ヲ貫リ

眞宗親王ニ進出スルト其ニ乃高地ノ一部ヲ突破シ本部陣

地ヲ包圍スルノ態勢ヲ示セリ

六月十八日ヨリ各大隊共敵ノ重圍下最後ハ一兵ニ至ル迄連日戦斗

激斗ヲ續ケタリ戦果ヲ收メタルモ死傷極メテ大ナルモノナリ

爾後聯隊本部陣地ハ戰車十數輛ヲ有スル優勢ヲ敵ノ攻撃ヲ

受テ連日之ヲ重退シ多大ノ戦果ヲ收メタリ 聯隊正面ハ最後迄突破セ

ラレガリモ22ノ全滅ニ伴ヒ右側背ニ猛攻ヲ受ケルニ至リ同日夕遂

ニ敵ノ重圍ヲ受ケ各才一線大隊ト連絡ヲ絶フニ至レリ

歩兵才二十二聯隊

六月十三日西ノ交代後逐次敵ノ攻撃ハ激烈ノ度ヲ加ヘ青七日ヨリ主力

ヲ聯隊正面ニ指向ス 聯隊ハ極力之ヲ重退ニ努メ多大ノ戦果ヲ

收メタルモ我ニ兵器彈藥既ニ乏ク僅カニ各隊ニ三ノ小銃アルニ過ギ

殆ト全員戦死シ全面的ニ陣地ヲ突破セラシ 聯隊本部又重圍ヲ受

ケ 聯隊長以下殆ト全員戦死セリ

三十六師団長ハ敵ノ攻撃急ニシテ既ニ通信機南杜絶セラシ組織的統一指

揮困難ナル現狀ニ鑑ミ六月二十日左記要旨ノ訓示ヲ爲シ部下ヲ戒

ム所ナリ

訓示ノ要旨

師団ハ茲ニ組織的通信機南破壞セラシ統一的指揮不能現狀ニ鑑

ミ各部隊ハ現陣地附近ヲ占領シ最後ノ一兵ニ至ル迄敵ニ出血ヲ強

要スハシ葡毛敵ノ虜囚トナリ取テ受クル勿シ最後ノ忠節ヲ全
 スバシ隣接部隊ト合流スルヲ妨ゲス
 三七、六月二十三日各部隊間ト師団司令部トノ通信連絡杜絶シ統一
 指揮不可能トナリ部隊ノ各個戦斗トナリ
 三八、六月三十日眞栄平西側甲江城師団司令部洞窟ニ於テ師
 団長自決ス

第二十四師団主要職員表

職名	階級	氏名	期別	摘要
師団長	中將	兩宮 翼	26	20.6.30 戦死
参謀長	中佐	木谷 義雄	34	同
参謀	少佐	苗代 正治	46	同
同	同	杉森 貫	49	同
兵器部長	同	小野 芳雄	少10	同
经理部長	中佐	小澤 辰二	32	同
軍医部長	少佐	都留 完	/	同
獣医部長	中佐	石垣 誠一	/	同
歩三長	同	吉田 勝	32	20.6.22 戦死

歩三三長	大佐	北郷格郎	27	20	6	21	戦死
歩八九長	同	金山均	26	20	6	21	戦死
搜索四長	少佐	才田勇太郎	13	20	6	20	戦死
野砲四長	大佐	西澤勇雄	28	20	6	21	戦死
工四長	同	兒玉祖光	27	20	6	22	戦死
輜四長	同	中村卯之助	26	20	6	24	戦死

別紙

感状寫ノ要旨

第二十四師団
同配属部隊

右八陸軍中將兩宮英統率ノ下昭和二十六年三月敵沖繩本島ニ侵寇スルヤ緒戦島尻南部要域ノ防衛ヲ嚴ニシテ敵ノ蠢動ヲ許サズ四月上旬中頭地区ヨリ敵三師南下シ第六十二師団方面ノ戦況危急ヲ告グルヤ輜シテ首里東北ノ戦線ニ加入シ敵南下ノ鋭鋒ヲ挫キ特ニ五月上旬敵第六十二軍団ニ対シテ攻害ニ方リテ八軍ノ中核兵団トシテ至難ナル状況ヲ克服シ晝夜二日ニ亘リ猛攻ヲ敢行シテ敵後方兵団出撃ノ初動ヲ破推シ大ニ威武ヲ奔揚ス爾来與那原首里ノ線ニ鉄桶ノ陣ヲ布キ善謀勇戦遺憾ナリ兵団ノ精強ヲ發揮シテ克ク長期ニ亘リ敵ノ攻勢ヲ撃推シ之ニ甚大ナル打撃ヲ與ヘテ顯功正ニ賞讃ニ値ス

此、同師團長ノ完平機宜ヲ得同師團ノ勇戦敢斗ハ全軍ノ
魁鑑タリ

仍テ茲ニ感狀ヲ授與ス

將來愈々志氣軒昂、從前ノ迫力ヲ以テ大君ノ所為忠則盡
命ノ大節ニ徹シ忠節ヲ全フスベシ

昭和二十年六月十日

第三十二軍司令官陸軍中將 正四位 勳一等 牛島 滿

功二級

24 D

司令部

